

## 花巻温泉郷大沢温泉におけるアートプロジェクトの支援 ～大沢温泉 PR プロジェクト～

人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）／ 教育学部中学校教育コース（美術）  
ヴィジュアルデザイン研究室学生グループ  
（発表者：千田彩梨・岩館実音）

指導教員：教授 本村健太（人社・芸文）

### 序

征夷大將軍坂上田村麻呂が湯治したという伝説もある花巻の大沢温泉（図1）は、南部藩主第40代の利剛公が家臣と共に和歌を詠んだり、江戸時代後期の盛岡藩を代表する絵師、川口月嶺が「大沢八景」という絵を残したりなど、深遠な歴史とともに今に至っている。さらには、宮澤賢治、高村光太郎、相田みつをなどの著名な文化人にも愛されてきた岩手県を代表する温泉地の一つである。

しかしながら、昨今のコロナ禍における宿泊客の減少に加えて、菊水館の茅葺屋根の崩落など、建物の老朽化が進み、経営維持が困難な状況が続いていた。そのようななかで、ポストコロナに向けた国土交通省観光庁の補助金を活用することにより、ようやく菊水館の改修工事を終え、令和5年4月にリニューアルを迎えることになった。

このリニューアル後の菊水館では、当分の間、アートギャラリーとして活用する予定となっている。そこで、アートやデザインの領域で学んでいる岩手大学の学生たちが若い視点や発想で大沢温泉のPR活動を展開することが本研究課題の目的として求められた。



図1：豊沢川を挟む大沢温泉の菊水館と湯治屋（高明橋の上から撮影）



## 令和5年度地域課題解決プログラム

なお、菊水館リニューアルに際しては、株式会社スタジオジブリの協力によって、岩手県民会館で4月に開催された「鈴木敏夫とジブリ展」とは別の企画展「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」(図2)が実施されることになった。この展覧会の企画実施においても学生たちとのコラボレーションで大沢温泉PRの一助となることを目指す。



図2：大沢温泉菊水館での「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」チラシ

大沢温泉菊水館は、一時、高明橋の基礎部分の崩落により車両の通行ができず、人員の送迎や営業にかかわる資材の搬入が困難となったため、平成30年10月より休館して宿泊や入浴ができなくなった時期がある。その後、令和元年6月になって、菊水館は宿泊の施設ではなく展示スペースとしての「昔ギャラリー 茅(ちがや)」として再開館した。その機会に活版ディーアイ株式会社の後藤栄樹さんより岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室に作品展示等の協力について打診があり、研究室が中心となって、令和元年9月にコラボレーション企画展「今昔の彼方へ」を開催することにした。賛同した学生・卒業生有志で「次に繋げる」、「前に進む」をキーワードに「岩大アートプロジェクト Fwd: (フォワード)」を立ち上げ、これに取り組んだ。「アーティスト・イン・レジデンス」として大沢温泉に三泊滞在し、制作風景も公開し、さらに菊水館の客室を使ったインスタレーション・絵画・イラスト・立体的な作品展示を行った。

岩大アートプロジェクト Fwd: (フォワード) 2019 @大沢温泉  
 大沢温泉×岩大 VD 研究室 コラボレーション企画展「今昔の彼方へ」  
<http://kenta.edu.iwate-u.ac.jp/gandaifwd2019.pdf>

上記の活動は、本研究課題に結びつくことになったといつてよい。今年度の大沢温泉PRに関する岩手大学人文社会科学部/教育学部のヴィジュアルデザイン研究室学生グループの取り組みについては以下に報告したい。(卒業研究としては、栗林茉里奈が「キャラクターデザインによるイラストの制作研究」において部分的に取り組んだ。)

## I. 本研究課題について

### (実施計画・方法)

まずは、本研究計画に興味を持って関わる学生を複数集めてグループを形成して、卒業研究、または関連分野の体験学修としての枠組みを明確にしていく。この学生グループを中心に、大沢温泉（社長：高田貞一さん）とスタジオジブリの関係者の方々、そして双方の橋渡しをしている活版ディーアイの後藤栄樹さんといっしょに協議を行いつつ、具体的な実施内容の詳細を詰めていくことにする。

### ○方法

関係者間で協議し、令和5年度の研究課題においては次のような内容で行うことを計画した。卒業研究としての取り組みについては、活動の経緯において結果的に一部の活動に関わるのみとなった。

1. スタジオジブリの展覧会と連携した学生作品の展示
2. 大沢温泉におけるPR活動の支援
3. SNS等での大沢温泉PR活動の支援

以下に、今年度における研究活動の経過について報告する。

## II. 今年度における研究活動の経過について

### (結果・考察)

### ○地域課題解決プログラムに先行する活動（カカシのデザイン案）



図3：臨時駐車場（「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」チラシより）



# 令和5年度地域課題解決プログラム

大沢温泉での「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」は、令和5年4月8日（土）に会期が始まった。本件は事前に相談があり、令和5年度の地域課題解決プログラムの活動として検討していたが、この展覧会の始まる前に実施したほうが有効だと判断したものについては、先行してPR活動の支援を開始していた。

展覧会用の臨時駐車場から菊水館の会場に向かうには図3のように小道を歩いて豊沢川の高明橋を渡る必要がある。関係者間での話し合いのなかで、この小道には、来場者を迎え、ワクワク感を与えるようにカカシを立ててはどうかという案になり、学生にそのデザイン案の打診があった。学生有志の原案（図4）を関係者間で検討し、採用されたものはプロの手によって修正され、実際にカカシ（図5、6）として作り上げられることになった。

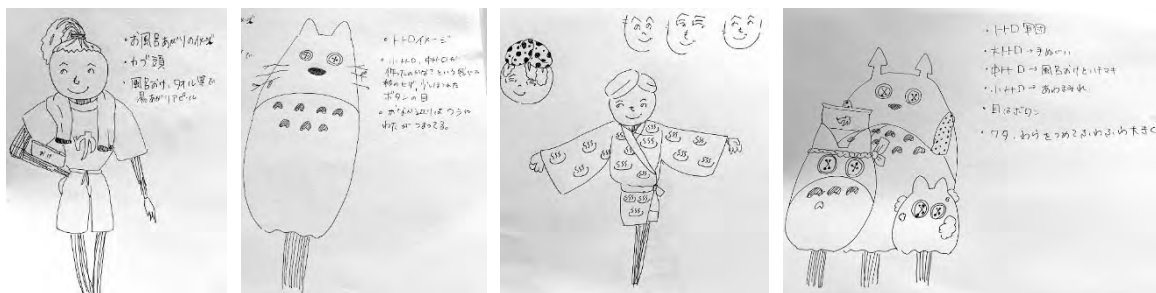


図4：学生によるカカシ原案事例（栗林菜里奈・橘鈴茄・上日向花菜・那須川莉帆）





図5：学生原案のカカシ（写真左の前後：栗林茉里奈・上日向花菜、写真右は通常版）



図6：「湯っくりさんぼみち」（学生発案の呼称）のカカシ



### ○ 観覧会オープニングセレモニーへの参加

令和5年4月7日（金）、大沢温泉にて「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」のオープニングセレモニーが開催され、教育学部3年の那須川莉帆（引率：本村健太）と卒業生2名が招待枠をいただき参加した。（図7）

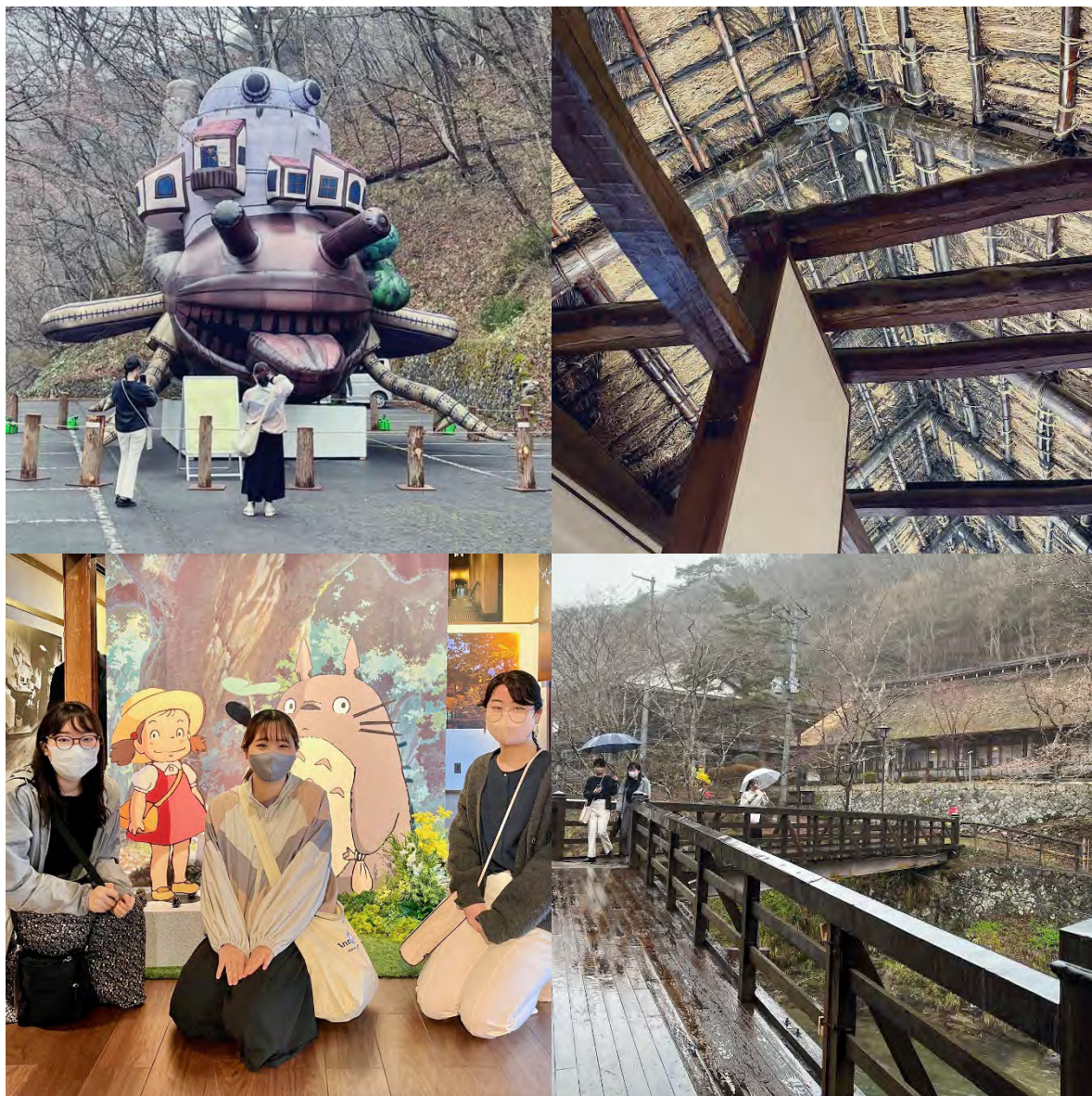


図7：「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」オープニングセレモニーにて

バス停のある道路からカカシのいる（後に「湯つくりさんぼみち」と名づけた）小道（図6）を歩いていくと、菊水館の駐車場ではフランスのパリからやってきて大沢温泉に移譲されたという「ハウルの動く城」のバルーンが来場者を迎えていた。

参考（“Howl’s Moving Castle” Studio Ghibli & Loewe）：

<https://x.com/catsuka/status/1616354602064150533?s=20>

菊水館の茅葺きホールを会場とするこの観覧会では、タイに住む写真家カンヤダさんの視点によるジブリ世界の風景写真が展示されていた。ここに導かれるテーマは「自然」と「家

## 令和5年度地域課題解決プログラム

族」である。また、そのカメラの視線は子どもの高さまで下がっているのも特徴である。今や珍しい茅葺き屋根の会場は、ジブリ関連の展覧会にとっても親和性が感じられた。

カンヤダさんの写真と大沢温泉との共通点は、忙しく追い立てられることなく「時間が止まっている」ように思えること、そして、いい意味での「いなか」という場のあり方にある。このように展示されている「写真」、そして「大沢温泉」はどちらも鈴木敏夫プロデューサーの好きなものであると説明を受け、今後のPR活動にもこの意識で取り組むことにした。

### ○「湯っくりさんぽみち」と名づける意図

前述のとおり、臨時駐車場から会場である大沢温泉菊水館に向かうには少し山道を歩くことになる。このことは、とくに夏の暑い時期にはマイナス面になることも予想される。そこで、この小道自体に価値を見いだせるならば、PR活動にプラスになる。まずは、この小道の呼称を考えてみることにした。

#### [小道のネーミング案]

栗林茉里奈：

- ・ぽんぽこ通り
- ・風のとおり道
- ・あるこう♪さんぽみち
- ・どんぐりロード
- ・猫のおもてなし通り
- ・ねこバス通り

阿部駿輝：

- ・パラレルパス(英:Parallel-pass) ※Parallel=並行
- ・沢がに海道
- ・向こうの小道
- ・手つなぎ沢
- ・沢のし、もうひとつ

長岡希歩：

- ・さんぽみち

那須川莉帆：

- ・泉の鼓道
- ・今昔通り
- ・ふるさとのみち
- ・ないしょのさんぽみち/ひみつのさんぽみち
- ・カントリーロード
- ・ちょっとしたみち/何気ないみち
- ・隠し通り/隠し道/神の隠し道/神の通り道
- ・足跡ロード
- ・よりみちの道/よりみちみち
- ・ポツンとみち
- ・おいでみち/おいでロード
- ・湯っくり通り/湯っくりお通り(ゆっくりおとおり)/湯っくりみち/湯っくり道
- ・さんさんザワザワ通り/神神沢沢どおり(しんしんさわさわどおり)/ほかほかさわさわ通り

## 令和5年度地域課題解決プログラム

橘鈴茄：

- ・ときめきストリート
- ・さんぼみち
- ・猫の逆立ち遊歩道
- ・またたびこみち
- ・四つ葉通り
- ・カナリアロード

上日向花菜：

- ・名のある川の主の小道
- ・名のある主たちの小道
- ・名のある主たちの通り道
- ・もののけたちの街道
- ・トヨサワヌシの通り道

佐藤夢華：

- ・さんぼ道
- ・クリゾンテームの道
- ・フラネ道
- ・「5分待ってやる 歩いてくるのだ」
- ・「5分で歩いてきな」
- ・茅ろ一ど
- ・かかしの道しるべ

岩館実音：

- ・誰もが通る道

--

ヴィジュアルデザイン研究室の学生たちでこの小道の呼称を検討し、最終的に「湯っくりさんぼみち」と名づけた。

「湯」はもちろん温泉や湯治を意味する。「ゆっくり」は、鈴木敏夫さんの「時間がとまったようだ」という大沢温泉の雰囲気、また来場者には、焦らず、急がず、ワクワクしながら会場に歩いてきてほしいという願い、「さんぼみち」は上記の通り、学生たちから複数の案が出ており、ひらがなで書くのが「ジブリらしい」ということで決定した。

### 湯っくりさんぼみち

この小道のネーミングによって、「臨時駐車場から歩かなくてはならない道」から「ちょっと歩いてみたい道」になるのではと期待している。

また、仮に大沢温泉でのジブリ展が終了したとしても、この名称であれば継続できるため、湯治客には「高明橋に続くこの小道、湯っくりさんぼみちの散策もお楽しみください」というような案内も可能である。このような価値の転換に期待している。

### ○大沢温泉 PR とジブリ展に関連する作品展示による支援

スタジオジブリが大沢温泉の応援のために展覧会を企画実施しているという機会はめったにないことであり、本活動の大沢温泉 PR としても、これに合流しつつ実施していくことになった。関係者のご厚意により、菊水館内で学生作品の展示を許可していただいた。そして、この作品展示に際しては、以下の二つの課題を設定していただいた。



## 令和5年度地域課題解決プログラム

### 第1課題：ジブリ作品をテーマにしてポスター制作「We Love ジブリ」

(ヴィジュアル・ロゴ・キャッチコピーによるデザイン制作)

#### テーマ「私が好きなジブリ作品の映画ポスターを作るなら」

(作品を選んだ理由・制作意図のコメントも提出)

#### ヴィジュアル（キャラクターなど）について：

自分自身の発想とわかる構図やポーズなどで描く。トレース禁止。既存のポーズ、実際にある構図と似通ったものは避ける。選んだ作品内に出ないキャラクターやモノを混ぜない。作品のストーリー・設定・世界観を壊さない。

#### ロゴについて：

ジブリ作品の中でも、手書き文字のようなタイトルのロゴは鈴木敏夫プロデューサーが描いているものである。もし自分がタイトルロゴをつけるなら、どんな風に描き、デザインするのか考えて制作する。できれば、オリジナリティーのある手書きからデザインする。既存のフォントを選ぶ場合は、元のタイトルと同じフォントは避ける。（既存のフォントを使用する場合、それが公の場で使用可能なものか、利用規約はしっかり確認する。）

#### キャッチコピーについて：

キャッチコピーは、これから映画を見る人に訴えかけるもの。インパクトがあるひとことや、お客さんの興味を引くような文言を考えてみる。手書き文字、既存フォントどちらでもよい。作品内のセリフを引用することは可。ただし、他作品に類似したデザインにしたり、他作品から文章を引用したりすることは避ける。

#### [参考情報]

ジブリ作品の中国版ポスターを作成しているデザイナー「黄海（ホアン・ハイ）」：

<https://jff.jp/ja/read/interview/huanghai/>

ジブリの広告に関する書籍「ナウシカの「新聞広告」って見たことありますか。ジブリの新聞広告18年史」（徳間書店）：

<https://www.tokuma.jp/book/b503534.html>

スタジオジブリ作品キャッチコピー一覧：

<https://ghibli.jpn.org/museum/catchphrase/>

### 第2課題：大沢温泉PRのためのポスター制作

(大沢温泉のテーマでのデザイン制作)

大沢温泉における「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」では、タイに住む写真家カンヤダさんの視点によるジブリ世界の風景写真が展示されている。導かれるテーマは「自然」と「家族」。展示されている「写真」、そして「大沢温泉」はどちらも鈴木敏夫プロデューサーの好きなものである。「ジブリの作品を世に送り出すプロデューサー」がそれぞれに見ている「魅力」を念頭に、「鑑賞して感じたこと」および「大沢温泉の魅力」をテーマに平面作品を制作する。

(こちらの課題は、最終的に会場展示用のポスターではなく、SNS等での展開用となった。)

上記の課題を実行するために大沢温泉および展覧会の現地調査を行うことにした。

## 令和5年度地域課題解決プログラム

### ○大沢温泉現地調査

令和5年6月10日（土）に大沢温泉およびジブリ展の現地調査を行った。

参加学生8名：

（3年生）笹谷成実・管莉怜子・橘鈴茄・谷地夏美・熊谷知星

（2年生）上日向花菜・紺野智瑚・永洞奈都実

（引率：本村健太）

花巻駅からバスで大沢温泉まで移動し、バス停から後に「湯づくりさんぽみち」と名づける小道を歩いて菊水館に向かった。菊水館の展覧会を鑑賞するとともに温泉の体験もして、今後のPR活動のための調査（図8）を行った。（旅費以外は自費で実施した。）



図8：大沢温泉と「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」の現地調査

#### [参加学生の感想]

温泉から見える自然の風景と、茅葺きの下で展示されるジブリ展の作品の雰囲気との親和性がある、大沢温泉全体をととても楽しむことができました。トトロなどジブリのキャラク



## 令和5年度地域課題解決プログラム

ターが実際にいそうな森を眺めながら温泉に入り、鈴木プロデューサーがここでどんなインスピレーションを受けているのかと想像が膨らみました。大沢温泉を訪れた人は、ジブリ展と温泉旅館の両方を合わせてとても満足感があると思います。だからこそ、より多くの人に訪れてもらえるようなPR作品の制作を頑張りたいと思いました。

(笹谷成実)

本日初めて大沢温泉に来たのですが、年数が経った匂いと雰囲気がとても懐かしさを感じ、このような造の建物自体がとても久しぶりで新鮮で楽しかったです。千と千尋の神隠しの湯屋を彷彿とさせる場所でした。また、自然を見ながら温泉を堪能できて落ち着いた気分になりました。リラックス出来る空間だったので、大沢温泉自体の雰囲気が本当にジブリ展という場所にピッタリだと感じ、とても楽しい1日を過ごすことが出来ました。

(管莉怜子)

本日はこのような機会を設けていただきありがとうございます。参加者一同、場の雰囲気を学び、味わい、とても楽しむことができました。作品パネルの展示も見やすく、実際に使われていた建物が再利用されていることで、一層作品のイメージや鈴木敏夫さんの考え方が伝わってくるような気がしました。また温泉にも入りましたが、夏場ということで豊沢の湯の窓が開放されており、景色もさることながらゆったりと楽しめる館の雰囲気がとても素晴らしかったです。この場をお借りして私たちの作品が展示されることをとても嬉しく思います。

(橘鈴茄)

私はあまり温泉に行かないので、今日の体験はとても貴重でした。温泉からの眺めも絶景で、小道や建物の裏側は千と千尋の神隠しの世界観に似ていてとても素敵でした。ジブリ展を目当てにやってきた人も温泉を楽しめるし、温泉を目当てにやってきた人もジブリ展を楽しめるなど感じました。今回の素敵な体験をこれからの展示やPR活動に活かしたいです。

(谷地夏美)

もう一つのジブリ展で、カンヤダさんの写真と言葉が、茅葺屋根や梁がある中で展示されることで、より美しく感じられました。言葉や写真の一つ一つが心に響き、また日常を頑張ろうという活力になりました。それとともに、大沢温泉の自然に囲まれた雰囲気や歴史を感じる雰囲気の良さを知ることができ、非常にありがたい機会だったと感じました。また、今度は個人的に宿泊のために大沢温泉に来たいと思います。

(熊谷知星)

今回のジブリのツアーに参加して、鈴木敏夫さんが「時間が止まっている」という気持ちがわかる気がしました。展示も素敵でしたが、菊水館などの昔ながらの建物や庭も、どこかジブリ作品を思わせるようで素敵でした。岩手の大沢温泉でジブリ作品の構想が練られていたと思うと感慨深いと思いました。今回は連れて来てくださりありがとうございました。

(上日向花菜)

人の手が加わっているであろう部分が自然の良さを壊しておらず、唯一のもののように感じました。生き物たちや人々、穏やかな時間の流れからは、幼い頃に見ていた世界をまた見ることが出来た気がします。低い位置や高い位置にも展示作品があり、壁が寂しく感じなかったので満足感がありました。ありがとうございました。

(永洞奈都実)

## 令和5年度地域課題解決プログラム

バスから降りた途端から目の前に自然が広がっていて、建物も昔ながらの木でできた温かみのあるものばかりでジブリの作品に飛び込んだような感覚になりました。展示はシンプルであるけれど、茅葺きや中の柱が残されて雰囲気があり、カンヤダさんの写真は考えさせられる作品ばかりでとても素敵な空間でした。私は普段温泉に入ることがないので少し恥ずかしいと思う気持ちがあったけれど、そのような気持ちも忘れてしまうほど目の前に広がる景色が美しく心も体も癒されました。今日見た風景を思い浮かべながらまたジブリ作品を見たいと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

(紺野智瑚)

### 〇ジブリ作品をテーマにしてポスターの展示「We Love ジブリ」

ここに関わる学生たちは、幼少の頃からジブリ作品とともに育ってきた世代である。ジブリ作品にはそれぞれの思い出があり、課題設定に応じて好きな作品のポスターを制作した。その成果は、ジブリ展のグランドオープンとなった7月1日（土）より、展覧会場手前の旧御食事処の壁に「We Love ジブリ」コーナーとして展示していただいた。（図9）



図9：学生制作のポスター展示「We Love ジブリ」（菊水館旧御食事処にて）

著作権上の問題もあるため、ここに各ポスター作品の掲載は行わないが、この制作に付したコメントを以下に紹介する。

（ここでの文章は展示用の文字数調整のために指導教員が監修している。）

『借りぐらしのアリエッティ』のタイトルは繊細で綺麗なものですが、私は力強い勇ましい手描き書体にしました。自分の体よりも大きなもので溢れた世界で、人間に見つからない



## 令和5年度地域課題解決プログラム

ようにひっそりと暮らすというのは、いつも危険と隣り合わせになります。このポスターでは、勇猛果敢で勝気、というアリエッティの二つの性格をイメージしました。

(石山咲来)

私が『もののけ姫』を描こうと思ったのは、森の幻想的な風景や世界観が好きで、人と自然を大きなテーマとして描かれているからです。この作品で描かれている森の風景の美しさ、それを自分たちの利益のために壊そうとする人間たち、それを阻止しようと戦おうとするサンという構図をテーマに、今回は自然を守るサンたちに焦点を当てました。

(管莉怜子)

今ではキャラクターの魅力や建造物・景色の美しさに惹かれている『千と千尋の神隠し』について、私が小さい頃に受けた恐怖・不安感をイメージしました。最初にネガティブな感情を与えることによって、ストーリー中のハクやりんの登場で安心感を抱くことや、油屋の人達に認められてくことなど、千尋の感情を共有できるように感じたからです。

(谷地夏美)

森林を開発する人間と自然に生きる狸たちとの攻防を描いた『平成狸合戦ぽんぽこ』を題材に作品を制作しました。開発と自然の共存がいかに難しいかという現実味のある課題について考えさせられます。人間を敵視する狸の立場で、人間たちと戦う狸たちの必死の表情にこだわり、頑張っている狸たちが救われてほしいという思いで描きました。

(笹谷成実)

私が子どもの頃、『千と千尋の神隠し』を観ながら、いっしょに湯屋に迷い込み、怒り、笑い、泣くことができる宝物のような時間を過ごしました。千尋がハクのことを思い出すシーンを「おぼろげな記憶の中」をテーマとして制作しました。川に溺れてしまった千尋を助けていたのは、実はハクだったという感動につながるイメージにしています。

(橘鈴茄)

私が幼い頃はただ楽しんで観ていた『千と千尋の神隠し』ですが、就職が迫る大学生となった今では、「働く」ということについて考えさせられる作品です。作品を観たことがない方には、個性的なキャラクターたちが一人の少女を見下しているように感じるかもしれませんが、作品を観た後に印象が大きく変わるように構図を意識して描きました。

(那須川莉帆)

猫であふれ、飼い猫とお話できる『猫の恩返し』の世界観が好きで選びました。登場するハルとユキが成長した後の姿を描いています。嬉しそうなユキの表情と影がポイントになっています。「恩人のあなたへ」というキャッチコピーは、ハルを助けるユキの視点から着けました。ロゴやキャッチコピーの文字については自分流に少し工夫しました。

(佐藤夢華)

### ○大沢温泉 PR 支援活動（缶バッジ作成・ラジオ出演）

令和5年7月1日（土）の「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」グランドオープン（それ以前は「プレオープン」という位置づけだった）に際して、来場者への「缶バッジプレゼント」の手伝いとラジオ出演のご依頼があり、大沢温泉 PR の支援活動としてこれらに取り組んだ。来場者から缶バッジの希望があれば、菊水館の駐車場に展示してある「ハウルの動く城」のバルーン前で撮影し、その場でその写真を缶バッジにしてプレゼントする。当日は学生がデザインの原案を行ったカカシもいっしょに展示されていた。

## 令和5年度地域課題解決プログラム

参加学生5名：

(3年生) 石山咲来・笹谷成実・橘鈴茄・菅莉怜子・谷地夏美

(引率：本村健太)



図10：大沢温泉と「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」の現地調査

当日に、缶バッジの作り方を活版ディーアイの方々に教えていただき、参加学生が交代・分担で作成した。この活動で家族連れの来場者を中心に手製の缶バッジをプレゼント(図10)した。さらに、当日はイベント情報ラジオ(IBC岩手放送「ラジオカー684」)による現地からの放送があり、3年生の笹谷成実が出演(図11)に協力した。



IBC 岩手放送 ラジオカー684 (2023年7月1日 14:10～、大沢温泉/花巻市)

<https://www.abc.co.jp/radio/radiocar684>



図 11 : 684 ラジオ出演後の記念撮影 (上記 URL 「ラジオカー684」より)

### ○Web 上での PR 活動の支援について

大沢温泉の応援を目的とする企画展「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」については下記のような発信元がある。

X (旧 Twitter) 公式アカウント

もうひとつの 鈴木敏夫とジブリ展 ～鈴木敏夫が愛した風景写真～ @大沢温泉

[https://twitter.com/oosawa\\_ghibli](https://twitter.com/oosawa_ghibli)

「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」公式ホームページ

<https://multi-info.link/oosawaonsen-ghibli/>

大沢温泉・菊水館 (昔ギャラリー「茅 (ちがや) 」) の公式ホームページ

<https://www.oosawaonsen.com/kikusui/>

大沢温泉の公式ホームページ

<https://www.oosawaonsen.com/>

本活動に参加している学生たちは、当初から X (旧 Twitter) のフォロー・リツイート (リポスト) に協力した。

令和5年度地域課題解決プログラム

大沢温泉応援のための第2課題「大沢温泉 PR のためのポスター」については、SNS での活用を念頭に制作することにした。（図 12、13、14）



図 12：大沢温泉 PR のための SNS 用画像制作（那須川莉帆・石山咲来・笹谷成実・橘鈴茄）





図 13：大沢温泉 PR のための SNS 用画像制作（卒業制作の一環として：栗林茉里奈）

### ○もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展入場者数と入場チケット付宿泊プランの売上実績集計

本展覧会は、4月から6月末までは準備期間・プレオープン、7月からは展示内容を変更しグランドオープンとされている。

4月8日（土）～12月17日（日）（253日）

累計入場者数：29,233人

累計有料入場者数：24,230人（有料率：約83%）

グランドオープン後の累計

7月1日（土）～12月17日（日）（169日）

累計入場者数：17,746人

累計有料入場者数：14,115人（有料率：約80%）平均入場者数：105人

累計宿泊者数（入場チケット付宿泊プラン）：640人（大人）、96人（小人） 総数736人

### ○本研究活動に関わった学生の感想例（抜粋）

大沢温泉（ジブリ展）：第一課題のジブリに関するポスターを制作するという課題に引き続き、第二課題では PR 用ポスターも制作することで、用途に合ったポスターの作り方や見せ方を研究することができた。映画のポスターを制作する際は、様々な映画のキービジュアルを調べたり、劇場用ポスターを調べたりして、タイトルの入れ方やキャッチコピーの書体、構図を学び、それを活かして制作することができた。また PR ポスターを制作するにあたっては、温泉や旅館の宣伝用画像、ポスター、ビジュアルを調べ、必要な情報は何か、どのような方法でアピールするのが最適かを考慮しながら制作に取り組むことができた。いずれ

も、企業や企画の用途に合わせた画像を作るという点で大変勉強になる点が多く、良い経験ができたと感じる。

ジブリ展に携わって自分の絵を飾っていただけることは今後ないと思うので、1年を通して、展示やPRのポスター制作は大変良い経験になったと感じる。来年度も「もうひとつの鈴木敏夫とジブリ展」は開催される予定だということなので、大沢温泉PRとしてできることはないか、模索していきたい。

(笹谷成実)



図14：大沢温泉PRのためのSNS用画像制作（後藤真莉奈）

#### 活版ディーアイ株式会社 後藤栄樹さんよりコメント

コロナ禍により、大打撃を受けた観光業界ですが、大沢温泉をこよなく愛するジブリプロデューサー鈴木敏夫さんが「なんとかしたい」と支援を計画。それに伴い岩手大学様に協力を依頼させていただきました。

案山子からポスター制作、グランドオーオープニングなど様々な取り組みをいただきまして、とても有意義で地域性のある支援活動だったと思います。改めて感謝しております。

ありがとうございました。

#### [謝辞]

本研究プロジェクトに関して、大沢温泉の高田貞一さんとスタジオジブリ関係者の皆様、そして双方の橋渡しとおとりまとめをされている活版ディーアイの後藤栄樹さんにたいへんお世話になりました。心より御礼申し上げます。